

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

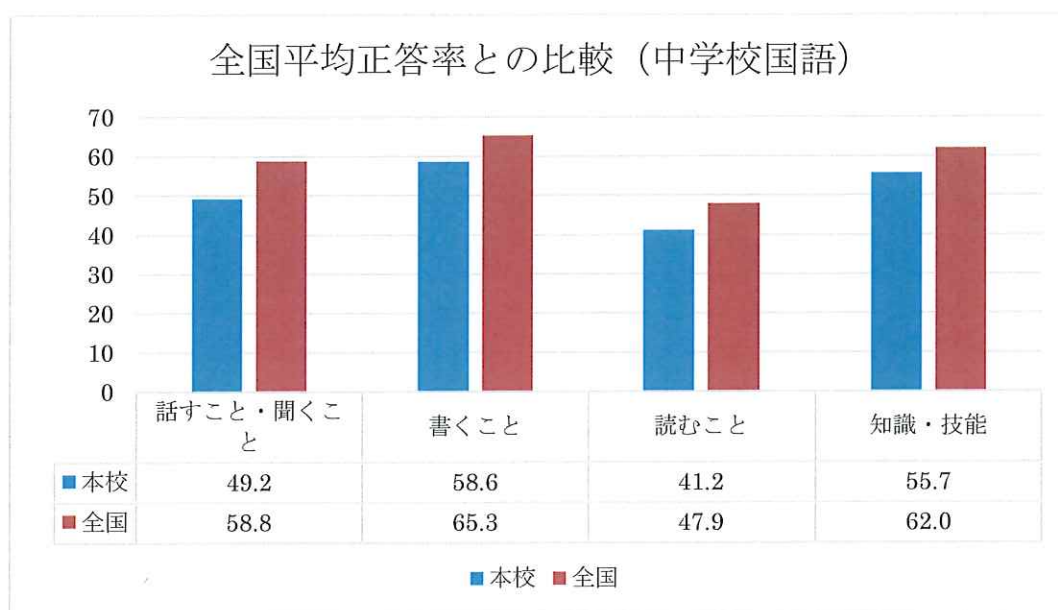
児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

全ての領域において全国平均正答率を下回りました。無回答率は、選択式問題は全国平均より低く、記述式問題は全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、評価の観点の「知識・技能」は全国正答率を6.3%下回り、「思考・判断・表現」は7.6%下回りました。「話す・聞くこと」では、資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えるように話すこと、「書くこと」では、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること、「読むこと」では、文章全体と部分の関係を捉えることが全国平均正答率を大きく下回っていました。漢字や言葉の学習、音読、読書などを通して、国語科の根幹をなす言葉の力である「知識・技能」の力をつけることや、得た知識を話や文章の中で使い、定着を図る必要性があります。また、授業を工夫し、根拠をあげて自分の考えを人に伝える場面を多く設定することで伝え合う力をつけ、自分の思いや考えを広げることができるようになる必要があると考えています

(3) 学力向上のための取り組み

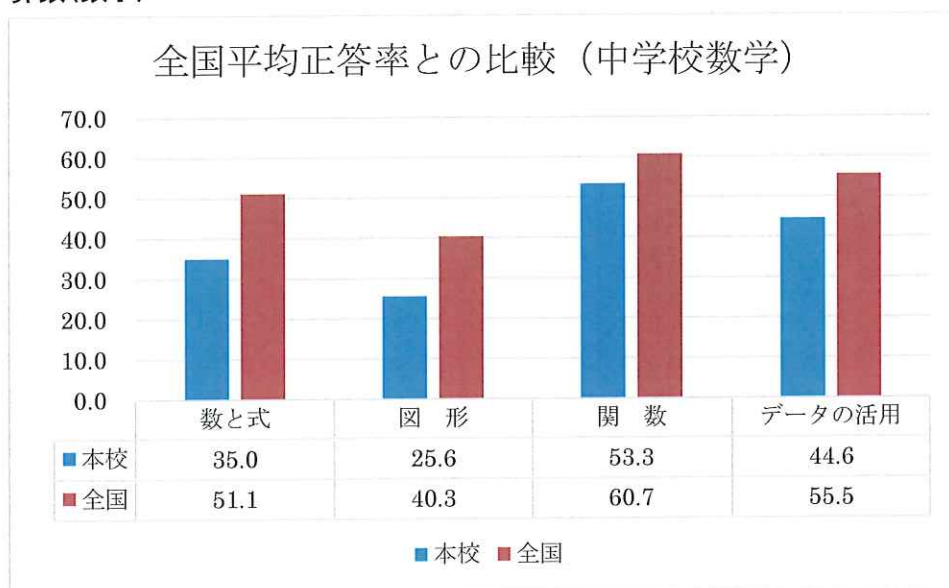
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらいったり、話したりする機会を増やします。
- 漢字の読み書き等の学習を続けるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 我が国の伝統文化に関する事項についての学習にも力を入れます。

【ご家庭では】

- 音読や漢字の練習、文章を書き写すことなどに、取り組ませてください。継続的に行うことで、読解力、表現力の向上につながります。
- 読書に親しみ、いろいろなジャンルの本を読むことに挑戦させてください。豊かな表現や語句に触れることや、分からない言葉の意味を聞いたり調べたりすることで、語彙力を高めることができます。
- ニュースや身の回りのことなど、いろいろな話題で会話を楽しんでください。

2 算数(数学)



(1) 結果

全項目で全国平均を下回る結果となりました。特に「数と式」「図形」の領域については、全国平均を大きく下回りました。また、無回答率も多くの問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、評価の観点の「知識・技能」は全国平均を11.8%、「思考・判断・表現」は13.6%下回りました。ただし、「関数」の領域で、式やグラフを用いて説明する問題は、全国正答率に近い正答率でした。

課題は、「数と式」「図形」領域の「知識・技能」の定着が不十分であることと、記述式の問題に対する無回答率の多さでした。説明をしたり、証明をしたりする問題の無回答率が40%を超えていました。

今後は、日々の授業の中で、基本的な計算問題の復習を行ったり、自分の考えたことを筋道立てて表現できるような問題に取り組んだりする必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 日々の授業の中で小テストや基礎問題の復習を行うことで、基礎・基本の定着を図ります。
- 自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 「知識・技能」の向上には毎日の積み重ねが必要です。毎日問題に取り組むような声かけをお願いします。タブレット端末を用いたドリル学習も、問題数が多く効果的です。